

【回天・大津島合宿】編 離島で合宿。魚雷に乗り込んだ地へ。

人間魚雷「回天」とは…

昭和19年(1944)、大東亜戦争末期、日本の戦局は悪化。それを逆転させる最後の手段として、極秘で生み出された「回天」。大量の爆弾を搭載した魚雷に人間自らが乗り込んで操縦し、敵艦に体当たりする必殺必勝“目のある魚雷”である。回天の名の由来は、「天を回(めく)らし、戦局を逆転させる」。

回天を発進する基地跡



山口県周南市大津島 初日…。

8月6日のこの日に 全国から集まった!

基地が海へ向かって 突き出ているな



海がまぶしい!



徳山港から馬島港までフェリーで約40分。瀬戸内海に浮かぶ大津島へ。



一行がフェリーを降りると、「回天の島」という大きな看板が目飛び込んできた。

朝、広島平和公園で慰霊祭に参加

黙祷…

65年前の原爆投下の日も 今日と同じような快晴だった



8時15分、黙祷!

瀬戸内海・徳山湾に浮かぶ美しい島、大津島。 人間魚雷「回天」操縦のため、全国から若者が集められた。

あまり知られていない海軍特攻兵器の人間魚雷。陸軍同様、日本や家族を守るため、当時の若者が覚悟を決めた場所、周南市の離島・大津島へ向かった。65年前の広島原爆投下の今日、2期生たちは平和慰霊祭に参列し、その足でこの地へ来た。戦争という深いテーマはさておき、何を感じるのか、残された命で何をしなければいけないのか、に自らが気づく合宿である。中條高德学長を筆頭に本学2期生と全国各地の経営者、合計42名がこの島に集まった。

1日目、回天顕彰会の岩本紀之先生が基地跡や各施設を案内のもと、回天記念館を見学し、特攻兵の遺書に見入った。その後、中條高德学長が無事到着され、講義で皆が熱くなった。夕食はベン大女子マネージャーの手作りで、創作・回天カレーと、2期生たちの湯がした男ラーメンを食卓に並べた。そのまま懇親会に流れ、無礼講で大いに語り明かし、とどめは岩本先生の御蔵出しマニアック回天ビデオが上映され、夜は昏々とふけていった…。(後編につづく)

合宿1日目のスナップショット ~ 初開催もあって運営は手探り。

セミが鳴き乱れる



回天記念館の前にて。左は回天のレプリカ

岩本先生と中條学長



夕食、学生たちが作った食事を運ぶ



酒はアサヒビールで



完成だ! 回天カレーを創作! 恐ろしいくらいの速さで、鍋をひたすら回転させました。コレを食べて人生回天!

回天記念館にて 乗組員たちの遺書も展示



真剣に…

将来の宣言!



中條学長講義前の挨拶

夜の懇親会



夜も学長、熱弁!



食事は全て手作り。外食企業でアルバイト経験があるので安心